

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	あらぐさ教室
-----	--------

取組の名称	あらぐさこども食堂
実施場所	あらぐさ教室
対象地域	武蔵中原駅周辺
対象地域の特色・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・駅に近く通勤通学しやすいことから核家族共働き世帯が多い。保育園がたくさんあり、公園が色様々のカラー帽子園児でいっぱいになる。放課後は校門前に何社もの習い事等送迎車が待機している程、子どもも大人も忙しい生活スタイルで、地域等人とのかかわりが薄い。 ・風紀が良い安心安全な地域。
取組の趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生活スタイルの様々な事情により、一人もしくはこどもだけで食事をしているケースが増えている。その食事内容は栄養バランスにかけていると想像つく。食卓を囲み、おしゃべりを交わしながら食べることで、食事が楽しい美味しいと感じつつ、人とつながりあって成長し、生きる力の構築の一助となることと、居場所になることを目指す。 ・こどもからその保護者ともつながり、子育てを共有し楽しめるようにする。
実施内容・実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第4火曜日の18時～20時に食堂を開く。 (コロナ禍の当面の間は、17時30分～19時にお弁当の提供、自宅にて食してもらっている) ・第2火曜日には、バランスよい栄養価のある季節を感じられるメニューを管理栄養士を中心にボランティアスタッフと立案する。

参加者の年代	子育て世代 単身高齢者	定員 (1回あたり)	20名(コロナ禍は お弁当提供40食)
実施頻度	毎月1回	活動日数 (年間)	12日
スタッフ体制	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかぎ教室関係者4名 ・栄養士、調理師2名 ・調理ボランティア5名 		
連携する団体・ 連携の手法	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさきこども食堂ネットワークより支援情報をもらう ・かわさき市民活動センターにチラシを置いてもらう ・社会福祉協議会情報誌に掲載 ・ほっとスペースとの交流 ・町内会住民との交流 		
取組実施により 見込まれた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度もコロナ禍のため、12回すべてお弁当の提供であった。食を通しての交流はできなかったものの、お弁当の受け渡し時に、子育て近況や仕事生活状況を聞いたりし交流に努めた。また一人暮らしの方は、一日誰とも話さない日もあって寂しいとおっしゃるので、時には、ソーシャルディスタンスをとって、マスクをしてのおしゃべりをしている。 ・コロナ禍でもこども食堂を締めずお弁当提供を続けることで、ボランティアスタッフの生きがいとして喜び高め続けられている。また、コロナ禍で生活を見つめる時間が出、改めて社会とつながろうとボランティアスタッフの申し出が2件あって迎え入れた。さらには、傘地蔵のように匿名でカンパや、米等の置き配を受けている。年を重ねた方々の人生観を深く感じ取り感謝を申し上げている。 ・掲示板を見て食品提供を頂くようになったり、申し込みがあったり、企業からの提供が増えたりし、こども食堂の認知理解の広がりを感じている。 		

